

## 少雨に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

平成25年6月5日11時20分、東・西日本の少雨に関する全般気象情報第1号が気象庁から発表されました。

(見出し)

東・西日本では、5月1日頃から降水量の少ない状態が続いています。この状態は、今後1週間程度は持続する見込みです。農作物や水の管理等に十分に注意してください。

(本文)

東・西日本では、5月1日頃から、高気圧に覆われて晴れる日が多く、降水量の少ない状態が続いています。九州南部から関東甲信地方にかけては、5月27～29日頃に梅雨入りしましたが、少雨を解消するようなまとまった雨は降っていません。

今後は雲が広がりやすいですが、降水量の少ない状態が1週間程度は持続する見込みです。農作物や水の管理等に十分に注意してください。

### 1 共通事項

農業用水の確保のため、地域内での話し合いや地区内を数カ所に分けるなどの配水方法を工夫するとともに節水栽培に努めましょう。

### 2 野菜 草勢の維持に努めましょう！

#### (1) 共通事項

##### ア かん水

マルチ内、通路等の土壌水分を適正に保つようにかん水を行います。かん水は、朝夕の気温が低い時間に行います。かん水チューブを用いた少量多回数のかん水が望ましい方法です。なお、畦間かん水を行う場合は、長時間水を溜めないようにします。

##### イ 草勢の維持

草勢が弱い株は摘花を行い、負担を軽減し草勢維持に努めます。また、老化葉、黄化葉を中心に摘葉を行い、葉面からの蒸散抑制に努めます。

追肥は、液肥やペースト肥料の土壌かん注を行うとともに、葉面散布を併用します。

#### (2) 品目別栽培管理

##### ア 夏秋きゅうり

(ア) 側枝の摘芯は、草勢が弱い場合は強く行わず、回復してから実施します。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等少雨時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めます。

##### イ 夏秋トマト

(ア) 土壌乾燥や過湿等水分の急変は尻腐果や裂果の発生を招くので、畦及び通路の土壌水分を適湿に保つように少量多回数のかん水とします。また、尻腐果防止としてカルシウム剤の葉面散布を行います。

(イ) 病害虫防除は、アザミウマ類、コナジラミ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の

病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めます。

#### ウ サヤインゲン

(ア) 株元や通路等へ薄く稲ワラを敷き、乾燥防止に努めます。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類、アザミウマ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めます。

#### エ 夏秋ピーマン

(ア) 草勢維持のためかん水を行います。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類、アザミウマ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めます。

#### オ 夏秋ナス

(ア) 草勢維持のためかん水を行います。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めます。

#### カ アスパラガス

(ア) かん水は夏秋どりの収量増加や株養成中の養分蓄積に対する効果が大きいので、畦上や通路かん水を行います。なお、畦間かん水を行う場合は、長時間水を溜めないようにします。

(イ) 病害虫防除は、アザミウマ類等少雨時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めます。

### 3 果 樹

少雨条件が続くと果実の肥大不良や樹勢低下（葉のしおれや落葉）などが発生しやすくなります。特に根域の浅い苗木や若木等は土壤の乾燥の影響を受けやすいので、かん水やマルチ、草刈りの実施により、土壤の水分管理を徹底しましょう。

#### (1) かん水

乾燥が続く場合は、かん水を実施し土壤水分を確保します。かん水は、1回当たり25～30mm程度(10a当たり25,000～30,000L)を目安とし、5～7日程度の間隔で実施してください。また、保水性が劣る砂質土壤などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

#### (2) 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行ってください（草生園における地表面からの蒸発散量は、草刈りを行い刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

#### (3) マルチ

刈り草や稲ワラ（暫定許容値以下であることを確認したものを使用する）のマルチを行い、土壤水分の保持に努めてください。

#### (4) 害虫防除

気温が高く経過すると害虫の世代交代が早まり、増殖が助長される傾向があります。特に、ハダニ類が急増しやすいため、寄生密度を常時観察し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）になったら速やかに防除を行ってください。また、主要害虫の防除に当たっては、発生予察情報を参考にしてください。

### 4 花 き

#### (1) かん水

露地栽培のキク、リンドウ等では、畦間かん水等を定期的実施しましょう。

また、施設栽培では、換気を徹底するとともに、時間をかけてかん水を行うようにしましょう。

なお、かん水は日中の高温時を避けて、朝夕の涼しい時間帯に行なってください。

(2) 土壌乾燥の防止

白黒ダブルマルチや敷きワラ等を積極的に活用し、地温の上昇や土壌の乾燥を防ぎましょう。

(3) 葉面散布

土壌乾燥が続くと、カルシウム欠乏による葉先枯れ症状（トルコギキョウ、リンドウ、ユリ等）や鉄欠乏による葉色の退色（ユリ、リンドウ等）といった生理障害が生じやすくなります。適度なかん水を行うとともに、葉面散布剤による応急処置を実施しましょう。

(4) 病虫害防除

高温乾燥条件では、アブラムシ類やハダニ類、葉枯病等の病虫害が発生しやすいので、発生状況をこまめに観察し、適期防除に努めましょう。

(注)「稲ワラ」は、暫定許容値以下であることを確認したものを使用してください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024 (521) 7339

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください)

URL：[http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp\\_portal/PortalServlet?DISPLAY\\_ID=DIRECT&NEXT\\_DISPLAY\\_ID=U000004&CONTENTS\\_ID=22752#gi\\_jyutsu\\_jyohou](http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=22752#gi_jyutsu_jyohou)

モバイル版 QRコード

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報

(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング  
情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>

